

鳥取環境大学の改革に関する県民アンケートの実施状況

平成23年2月1日
 新生公立鳥取環境大学
 設立協議会事務局

【概要】

◆実施時期 平成22年12月28日～平成23年1月14日

◆配布、回答数

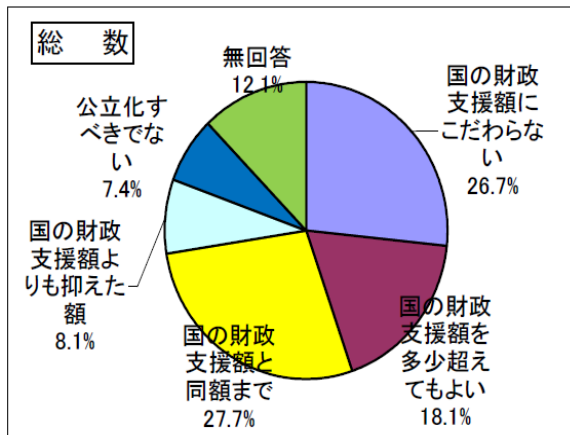
区分	回答数	配布数	回答率
高校2年生	1,409	1,705	82.6%
保護者	746	1,705	43.8%
高校教員	1,258	1,479	85.1%
県内企業	240	620	38.7%
一般県民	777	—	—
合計	4,430	5,509	—

◆主な結果

●国の財政支援を踏まえた大学運営について《問10》

設問：財政負担を踏まえながら、大学運営についてどう考えられますか。

- ・ 県と市の公立大学として、国の財政支援の額にこだわらず、積極的な運営をすべき
26.7%
 - ・ 県と市の公立大学として、国の財政支援を多少超えてでも、魅力的な運営をすべき
18.1%
 - ・ 県と市の公立大学として、国の財政支援と同額まで、魅力的な運営をすべき
27.7%
 - ・ 県と市の公立大学として、国の財政支援より抑えた額で、運営をすべき
8.1%
- } 80.6%
- ・ 国の財政支援の有無にかかわらず公立化はすべきでない
7.4%
 - ・ 無回答（分からない）
12.1%



【参考】平成22年8月実施アンケート結果

●望ましい設置形態について

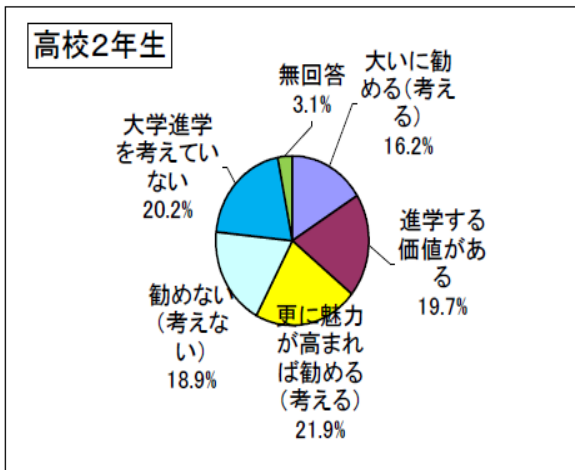
設問：鳥取環境大学は、今後どのような設置形態が望ましいと思いますか。

- ・ 公立が望ましい 69.8%
- ・ 私立が望ましい 18.0%
- ・ 無回答（その他） 12.2%

●進学先の候補の一つとなるか。(高校生)《問8》

設問：改革案を実施し、公立化した後の鳥取環境大学は、進学先の候補の一つになると考えますか。

・高校生：大変魅力的であり、大いに考える	16. 2%	} 35. 9%
進学してみる価値のある大学だと考える	19. 7%	
更に魅力が高まれば考える	21. 9%	
候補として考えない	18. 9%	
大学進学を考えていない	20. 2%	
無回答	3. 1%	



【参考】平成22年8月実施アンケート結果

●進学候補対象となる可能性について

設問：鳥取環境大学が、仮に公立大学となった場合、進学先の候補になりますか。

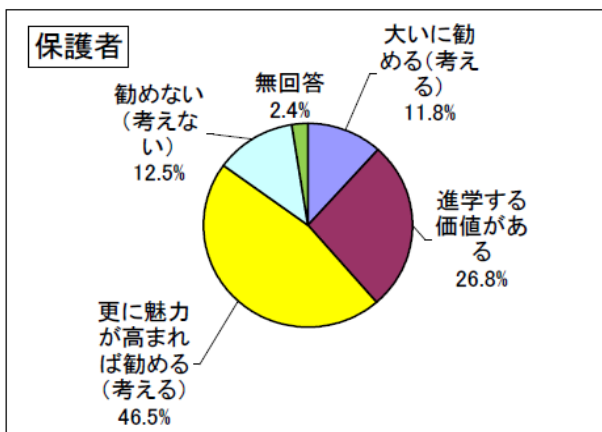
(高校生)

・候補となる	4. 9%
・候補とならない	45. 1%
・分からない	34. 1%
・進学しない	12. 3%
・無回答	3. 6%

●身近な受験生に進学を勧めるか。(保護者)《問8》

設問：身近に大学受験生がいるとした場合、改革案を実施し、公立化した後の鳥取環境大学に進学を勧めますか。

・保護者：大変魅力的であり、大いに勧める	11. 8%	} 38. 6%
進学してみる価値のある大学だと勧める	26. 8%	
更に魅力が高まれば勧める	46. 5%	
勧めない	12. 5%	
無回答	2. 4%	



【参考】平成22年8月実施アンケート結果

●進学候補対象となる可能性について

設問：鳥取環境大学が、仮に公立大学となった場合、進学を勧めますか。

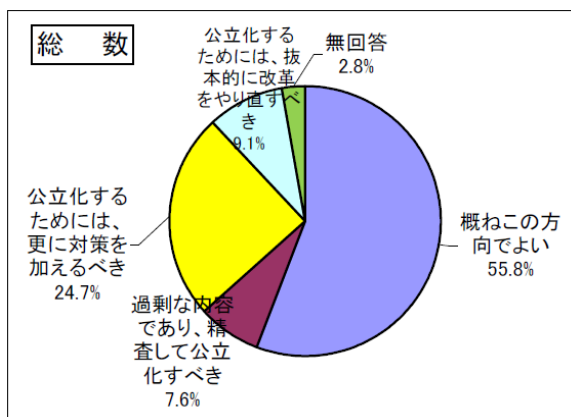
(保護者)

・勧める	23. 5%
・勧めない	46. 1%
・無回答(その他)	30. 4%

●総合的な改革案全体について《問7》

設問：「総合的な改革案」について、全体をご覧になりどう考えられますか。

- ・概ねこの方向でよい 55.8%
- ・過剰な改革内容であり、内容を精査して公立大学化すべき 7.6%
- ・公立大学化するために更に対策を加えるべき 24.7%
- ・この改革案では不十分であり、抜本的に改革をやり直すべき 9.1%
- ・無回答 2.8%



●強化すべき点《問9》

設問：受験生に勧めたい（進学を考えたい）大学とするためには、どのような点を強化すべきだと思いますか。（上位項目）

- ・就職の支援 18.5%
- ・魅力ある授業、先生 11.3%
- ・資格の取得 11.2%
- ・大学の知名度 9.2%
- ・実践的な技術の習得 7.2%

※詳細は別添のとおり

鳥取環境大学の改革に関する説明会（パブリックヒアリング）の実施状況

◆東部（1月9日（日）13:30～15:20、とりぎん文化会館第1会議室、約60人参加）

主な意見（発言者ごと）

①	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで何人か環境大学に送り込んだが、入学して良かったと言う学生と、途中でやめたいと言う学生がいた。しっかりとした教育をする保証があればどんどん入学させたい。 ・他大学の環境系の学生はどんどん増えているが環境大学はその逆となっている。 ・資格取得に力を入れる等人材育成の道筋が見えてこなかった。他大学の例を参考にもっと努力を。 ・もっと経営努力をして、十分な議論をしてから公立化しても決して遅くはないと思う。 ・環境大学は、環境ということで十分な魅力を持っている。 ・サークル活動など大学の賑わいも受験生にとっては魅力となる。魅力のあるキャンパスなので子供と山羊がふれあえることなど土日の活用法を考えてがんばってほしい。 ・大学のやっていることが伝わってこなかった。情報や状況が伝わるようPRに力を入れるべき。 ・中学・高校理科の教員免許が取得できるのはよいこと。環境大学出身者が中学、高校で教員をすることは、学生の増につながる。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者が減少傾向になった時点での経営努力がわからない。 ・公立化は大賛成。 ・今日来ている皆さんは応援団だと思う。だからこそ厳しい意見が出るのだと思う。 ・設立資金はほとんど税金である中で道義的責任、説明責任が十分に果たされていなかった。 ・どのようなプロセスで経営学部を開設することになったかわかりにくい。高校生、保護者などが経営学部を望んでいるのか。 ・ガイナレ、まんがなど県の施策が並んでいるだけでは大学の魅力は出ないのではないかと。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・公設民営方式で出発したのが誤りだと思っている。 ・これまで経営状況の公開が十分でなく大学の状況が県民、市民にはわからなかった。今後は経営状況の把握、周知が必要である。 ・場合によっては、私学の雄から経営のノウハウを学ぶことが大事だと思う。 ・中国地方からどれだけ学生を集められるかが大事だと思う。 ・入学定員を半分に分け、環境学部が138人となり経営学部が設置されることとなれば環境が薄まってくるので、環境大学という名前がふさわしいのか。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・公立化で学費が下がり多くの学生が確保できると思う。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・開学当時はユニークな大学でおもしろいと思っていた。何とか持ち直して建学当時のような勢いを取り戻してほしい。 ・定員充足率100%、志願者倍率2倍という経営試算の前提条件が達成できるという方策を示して欲しい。それが提示されれば応援をしたい。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・経営見通しが達成できない場合の経営責任の所在はどこに行くのか。
⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年4月に公立化しなければならぬ積極的な理由は何か。
⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の具体的方法、手法を示して欲しい。

◆中部（1月10日（月、祝）10:00～11:20、中部総合事務所講堂、約20人参加）

主な意見（発言者ごと）

①	・社会に必要とされる人材の育成に重点を置くという姿勢を評価する。そのための教員集め、教員育成の仕組みも検討すべき。
②	・保護者の立場からすると就職支援に力を入れてもらいたい。
③	・教員、学生に女性が増えた場合に託児などの仕組みも考えて欲しい。 ・他県にも大学の名前を出す努力が必要
④	・計画が一般人にとっては性急に進んだ気がする。内部では長い間協議されたのかもしれないが、マスコミに出だしたのも最近のような気がする。 ・中、西部の県民にとっては県外の大学と同じ。魅力ある大学づくりを責任を持って行い、自信と誇りを持った学生を送り出して欲しい。 ・改革案に書いてあることは今までやってもよかったものである。
⑤	・農業経営など鳥取県の良さを活かす学問を検討して欲しい。
⑥	・この定員の人数規模で、これだけたくさんのもので全部できるのか。一つ二つの飛び抜けた魅力があればいいのではないか。 ・おとなしすぎる鳥取の人間らしくない営業力を持った人間育成を行って欲しい。

◆西部（1月10日（月、祝）14:30～15:30、西部総合事務所第13会議室、約40人参加）

主な意見（発言者ごと）

①	・公立大学となるのであれば、地元高校出身者への何らかの配慮が考えられないか。 ・受験生（保護者）の立場からすると早く正式に発表をして欲しい。 ・女子高校生の娘の意見だが、環境大学という名前をこの際変えたらどうか。重みがなく、伝統に裏付けされてないイメージである。
②	・専門学科（商業科など）の高校生を生かす入試、入学後の学力向上等について検討して欲しい。
③	・経営学部を設置は大賛成。これまで多く子ども達が県外に進学していたが、自宅から通える場所に経営学部ができれば教育費負担の軽減につながる。 ・北東アジア交流、人間形成にも力を入れて欲しい。
④	・山陰両県における就職口を開拓して欲しい。
⑤	・地域との連携強化は良いこと。フィールドワークの体験が若者の力を引き出すきっかけとなる。
⑥	・西部地域のサテライト授業や、通学が可能になるような支援が考えられないか。
⑦	・改革案は地元の人間には魅力的だと思う。県外の方にも魅力を持つものとしてメッセージを発信した方がよい。
⑧	・西部地区での環境大学の認知度は低い。 ・中学・高校理科の教員免許が取得できるのは魅力。環境大学出身者が中学、高校で教員をすることは、大学にとってもプラスになる。中学の理科の授業を環境大学が支援してもよいのでは。
⑨	・西部地域からは遠いので、アパート代の補助や、特急定期の補助なども考えられないか。
⑩	・子ども達、小・中・高の教員との連携を強化すべき。 ・大学のやっていることが伝わるよう、情報発信力を強化すべき。